

【 復活のトロパリ 第3調 】

てんにあるものたのしめよ、ちにあるもの  
 天在者 樂 地在者

よろこべよ、しゅはそのひぢのちからをあら  
 悦 主 其 臂 力 顯

わして、しをもってしをほろぼし、ふ復  
 死 以 死 滅

くかつのはじめとなり、われらをぢごく  
 活 首 我 等 地 獄

のはらよりすくい、せかいにおおいな  
 腹 救 世 界 大

るあわれみをたまいたればなり。  
 憐 賜

【 日本の亞使徒ニコライのトロパリ 第4調 】

しととひとしくどうざなるもの、ちゅう  
 使徒 等 同 座 者 忠

じつにしてしんちなるハストスのえきしゃ、せい  
 實 神 智 役 者 聖

なるしんにえられたるふえ、ハストのあい  
 神 撰 笛 愛

にみちたるうつわ、わがくにのこう  
 滿 器 我 國 光

しよ うしゃ、あしとしゅきょうせいニコライ  
 照 者 亞使徒主教 聖

よ、なんぢのぼくぐんのため、および  
爾羊群爲

ぜんせかいのたために、いのちをたもうせい  
全世界爲 生命賜 聖

さんしゃにいのりたまえ。  
三者祈 給

【 日本の亞使徒ニコライのコンダク 第4調 】

こうえいはちちとこいとせいしんにき  
光 榮 父 子 聖 神 歸

す、

せいせいしゃあしとせいニコライよ、わが  
成 聖 者 亞 使 徒 聖 我

くになんぢをたびびとおよびいほうじんとうけ  
國 爾 旅 人 及 異 邦 人 受

しに、なんぢははじめわがくににおいておの  
爾 初 我 國 於 己

れをがいらいしゃとしりたれども、ハリストの  
外 來 者 知

ひかりとあたたかきをながし、なんぢのて  
光 暖 流 爾 敵

きをぞくしんのことなをし、かれらにか  
屬 神 子 爲 彼 等 神

みのおんちようをあたえ、ハリストのきょうかいをたて  
 恩寵 與 教 會 建  
 たり、いまこのきょうかいのためにいのり  
 今 此 教 會 爲 祈  
 たまえ、けだしわれらそのしよしはなん  
 給 蓋 我 等 其 諸 子 爾  
 ちによぶ、わがよきぼくしゃよ、よろこ  
 呼 我 善 牧 者 慶  
 べよ。

【 三歌齋經のコンダク 第6調 】

いまもいつもよよに、アミン。  
 今 何 時 世 世  
 えいちをたまひ、ぜんちをあたうるしゅ、  
 睿 智 賜 善 智 與 主  
 むちのもののきょうどうし、まづしきものの  
 無 智 者 教 導 師 貧 者  
 ほごしゃたるしゅさいよ、わがこころをか堅  
 保 護 者 主 宰 我 心 堅  
 ためてさとらしめたまえ、ちちのことば  
 悟 給 父 言  
 よ、なんぢわれにことばをあたえたま  
 爾 我 言 與 給

え、けだしみよ、わがくちはもださずして  
蓋 視 我 口 黙

なんぢによぶ、じれんなるしゅよ、われおちい  
爾 呼 慈 憐 主 我 陥

りしものをあわれみたまえ。  
者 憐 給

司祭) ( 黙誦：聖なる神、聖者の中に息い、セラフィムより聖三の聲を以て歌頌せられ、  
ヘルヴィムより讚榮せられ、悉くの天軍より伏拜せられ、萬物を無より有と  
なし、人を爾の像と肖とに依りて造り、爾が諸の賜を以て之を飾り、  
願う者に智慧と明悟とを與え、罪を行ふ者を棄てずして、其救の爲に痛悔  
を立て、我等卑しくして不當なる爾の諸僕を、此の時に於ても、爾が聖な  
る祭壇の光榮の前に立ちて、爾に當然の伏拜讚榮を奉るに堪うる者と  
なしし主宰よ、爾親ら我等罪人の口よりも聖三の歌を受け、爾の仁慈を  
以て我等に臨み、我等に凡そ自由と自由ならざる罪を赦し、我が靈と體と  
を聖にし、我等に生涯善功を以て爾に務むるを得せしめ給え、聖なる生  
神女と古世より爾の喜を爲しし諸聖人との祈禱に依りてなり、 )

司祭) 蓋我が神よ、爾は聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世  
に、

ア ミ ン。

【 聖三祝文 】

せいなるかみ、せいなるゆうき、せいなる  
聖 神 勇 毅 聖

じょうせい のものよ、われらをあわれめ  
 常生 者 我 等 憐

よ。せいなるかみ、せいなるゆうき、せい  
 聖 神 聖 勇 毅 聖

なるじょうせい のものよ、われらをあわれ  
 常 生 者 我 等 憐

めよ。せいなるかみ、せいなるゆうき、  
 聖 神 聖 勇 毅

せいなるじょうせい のものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。こうえいはちちとことせいしん  
 光 榮 父 子 聖 神

にきす、いまもいつもよよに、アミン。  
 歸 今 何 時 世 世

せいなるじょうせい のものよ、われらをあわ  
 聖 常 生 者 我 等 憐

れめよ。せいなるかみ、せいなるゆう  
 聖 神 聖 勇

き、せいなるじょうせい のものよ、われらを  
 毅 聖 常 生 者 我 等

あわれめよ。  
 憐

司祭) ( 黙誦：主の名に依りて來たる者は崇め讃めらる、ヘルヴィムに座する者よ、爾は其國

こうえい ほうざ あ つね あが ほ いま いつ よよ  
の光榮の寶座に在りて恒に崇め讃めらる、今も何時も世に、 )

【 プロキメン 提綱 大齋前の主日 第8調 】

司祭) つつし き しゅうじん へいあん  
慎みて聽くべし、衆人に平安、

誦經) なんぢ しん  
爾の神にも、

司祭) えいち  
睿智、

誦經) しゅなんぢら かみ ちかい な つぐの  
プロキメン、主爾等の神に誓を作して償えよ、

しゅ なんぢら の かみにちかいをなしてつぐの  
主 爾 等 神 誓 作 して つぐ の 償  
えよ、

誦經) かみ し そのな おおい  
神はイウデヤに知られ、其名はイスライリに大なり、

しゅ なんぢら の かみにちかいをなしてつぐの  
主 爾 等 神 誓 作 して つぐ の 償  
えよ、

誦經) しゅなんぢら かみ  
主爾等の神に

ちかいをなしてつぐのえよ、  
誓 作 償

【 アポストロス 使徒經 112端 ロマ書13章11節~14章4節 】

司祭) えいち  
睿智、

誦經) せいしと じん たつ しよ よみ  
聖使徒パヴェルが羅馬人に達する書の讀、

司祭) つつし き  
謹みて聽くべし、

誦經) けいてい いま われら はじ しん とくくら すくい さら われら ちか よるす ひる  
兄弟よ、今は我等が初めて信ぜし時に較ぶれば、救は更に我等に近し。夜過ぎて晝

ちか づけり、故に我等昏昧の 行 を除きて、光明の 甲 を衣るべし。我等晝に在るが如  
く、 行 を 美 しくすべし、饗饗及び沈湎好色 及び邪侈、争闘及び嫉妬すべから  
ず。 乃 爾 等は我が主イエス ハリストスを衣よ、肉體の 慮 を慾に變ずる勿  
れ。 信の弱き者は、意見を詰らずして之を納れよ。蓋 或人は凡の物食うべしと信  
じ、弱き者は野菜を食う。食う者は食わざる者を藐る勿れ、食わざる者は食う者を  
議する勿れ、蓋 神は彼を納れたり。爾は何人にして他人の僕を議するか、彼は己の  
主の前に立ち、或は倒る。且彼は立てられん、蓋 神は之を立つるを能す。

\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) 今は、わたしたちの救が、初め信じた時よりも、もっと近づいているからである。夜はふけ、日が近づいている。それだから、わたしたちは、やみのわざを捨てて、光の武具を着けようではないか。そして、宴樂と泥酔、淫乱と好色、争いとねたみを捨てて、昼歩くように、つつましく歩こうではないか。あなたがたは、主イエス・キリストを着なさい。肉の欲を満たすことに心を向けてはならない。信仰の弱い者を受けいれなさい。ただ、意見を批評するためであってはならない。ある人は、何を食べてもさしつかえないと信じているが、弱い人は野菜だけを食べる。食べる者は食べない者を軽んじてはならず、食べない者も食べる者をさばいてはならない。神は彼を受けいれて下さったのであるから。他人の僕をさばくあなたは、いったい、何者であるか。彼が立つのも倒れるのも、その主人によるのである。しかし、彼は立つようになる。主は彼を立たせることができるからである。

\*\*\*\*\*

【 アリルイヤ 大齋前の主日 第6調 】

司祭) 爾に平安、

誦經) 爾の神にも、

司祭) 睿智、

誦經) アリルイヤ、



誦經) 至上者よ、主を讚榮し、爾の名に歌うは美なる哉、

ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、  
ア リ ル イ ヤ 。

誦經) <sup>なんぢ あわれみ あさ の なんぢ まこと よ の び かな</sup> 爾の憐を朝に宣べ、爾の眞を夜に宣ぶるは美なる哉、

ア リ ル イ ヤ 、 ア リ ル イ ヤ 、  
ア リ ル イ ヤ 。。

司祭) ( 黙誦: <sup>ひと あい しゅさい わ こころ かみ し ちえ いさぎよ ひかり かがや わ しねん</sup> 人を愛する主宰よ、我が心に神を知る智慧の浄き光を輝かし、我が思念

<sup>め ひら なんぢ ふくいん おしえ さと たま わ うち なんぢ ふく いましめ</sup> の目を啓きて、爾が福音の教を悟らしめ給え、我が衷に爾の福たる誠を

<sup>おそ おそれ い われら ことごと にくたい よく ふ およ なんぢ よるこ ところ</sup> 畏るる畏をも入れて、我等が悉くの肉體の慾を踏み、凡そ爾の喜ぶ所

<sup>おも か おこな ぞくしん せいかつ す いた たま けだし かみ</sup> を思い且つ行いて、屬神の生活を過ぐるを致させ給え、蓋ハリストス神よ、

<sup>なんぢ わ たましい からだ こうしょう われらなんぢ なんぢ むげん ちち しせいしぜん</sup> 爾は我が靈と體との光照なり、我等爾と爾の無原の父と至聖至善にし

<sup>いのち ほどこ なんぢ しん こうえい けん いま いつ よよ</sup> て生命を施す爾の神とに光榮を獻ず、今も何時も世世に、アミン。 )

【 <sup>エヴァンゲリオン</sup> 福音經 マトフェイ福音書17端 6章14~21節 】

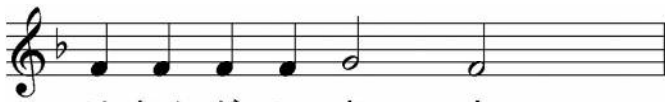
司祭) <sup>えいち つつし た せいふくいんけい き しゅうじん へいあん</sup> 睿智、肅みて立て聖福音經を聴くべし、衆人に平安、

なんぢのしんにも。  
爾神

司祭) <sup>でん せいふくいんけい よみ</sup> マトフェイ傳の聖福音經の讀、

しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主光榮爾歸光榮





はなんぢにきす。  
爾 歸

司祭) <sup>つつし き も なんぢらひと そのあやまち ゆる なんぢら てん ちち なんぢら ゆる</sup> 謹みて聴くべし、若し爾等人に其過を免さば、爾等の天の父は爾等にも免さ

<sup>も ひと そのあやまち ゆる なんぢら ちち なんぢら あやまち ゆる またなんぢら</sup> ん、若し人に其過を免さずば、爾等の父も爾等に過を免さざらん。又爾等

<sup>ものいみ とき ぎぜんしゃ ごと うれ さま な なか けだしかれら そのものいみ ひと あらわ</sup> 齋する時、偽善者の如く憂わしき容を爲す勿れ、蓋彼等は、其齋の人に顯れ

<sup>ため かおいろ そこな われまこと なんぢら つ かれら すで そのむくい う なんぢものいみ</sup> ん為に、顔色を損う、我誠に爾等に語り、彼等は已に其賞を受く。爾齋す

<sup>とき こうべ あぶら おもて あら なんぢ ものいみ ひと あらわ ひそか ところ いま</sup> る時、首に膏ぬり、面を洗え、爾の齋の人に顯れずして、隠なる處に在

<sup>なんぢ ちち あらわ ため しか ひそか かんが なんぢ ちち あらわ なんぢ むく</sup> す爾の父に顯れん爲なり、然らば隠なるを鑒みる爾の父は顯に爾に報いん。

<sup>なんぢら ため たから ち つ なか ここ しみ さび そこな ここ ぬすびとうが ぬす</sup> 爾等の爲に財を地に積む勿れ、此處には蠹と銹と損い、此處には盗穿ちて竊む。

<sup>すなわちなんぢら ため たから てん つ かしこ しみ さび そこな かしこ ぬすびとうが ぬす</sup> 乃爾等の爲に財を天に積み、彼處には蠹も銹も損わず、彼處には盗穿ちて竊

<sup>けだしなんぢら たから あ ところ なんぢら ところ あ</sup> まず。蓋爾等の財の在る處には、爾等の心も在らん。

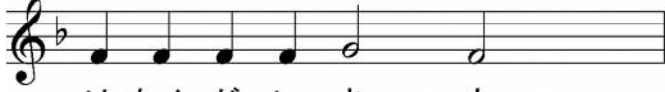
\*\*\*\*\*

(比較用 口語訳) もしも、あなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。もし人をゆるさないならば、あなたがたの父も、あなたがたのあやまちをゆるして下さらないであろう。また断食をする時には、偽善者がするように、陰気な顔つきをするな。彼らは断食をしていることを人に見せようとして、自分の顔を見苦しくするのである。よく言うておくが、彼らはその報いを受けてしまっている。あなたがたは断食をする時には、自分の頭に油を塗り、顔を洗いなさい。それは断食をしていることが人に知れないで、隠れた所においてになるあなたの父に知られるためである。すると、隠れた事を見ておられるあなたの父は、報いて下さるであろう。あなたがたは自分のために、虫が食い、さびがつき、また、盗人らが押し入って盗み出すような地上に、宝をたくわえてはならない。むしろ自分のため、虫も食わず、さびもつかず、また、盗人らが押し入って盗み出すこともない天に、宝をたくわえなさい。あなたの宝のある所には、心もあるからである。

\*\*\*\*\*



しゅよ、こうえいはなんぢにきし、こうえい  
主 光 榮 爾 歸 し 光 榮



はなんぢにきす。  
爾 歸

※ 聖体礼儀③ (金口イオアン) へ